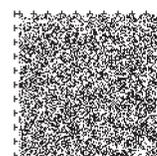


令和2年度

東京都の財務諸表(概要版)



令和3年9月 東京都会計管理局



1 新公会計制度について

概要

自治体の財務諸表は、行政運営の結果を住民の皆様に対してお知らせする手段の一つです。都の財務諸表は、企業会計の手法にならない、複式簿記・発生主義による新公会計制度に基づいて作成されます。新公会計制度を導入することにより、単式簿記・現金主義による従来の官庁会計制度に比べ、行政運営の結果に関する説明責任をより一層果たすことができ、施策内容の検証等、マネジメントへの活用も可能になります。

従来の官庁会計制度の考え方

【単式簿記】

一つの取引について、現金の収支のみをとらえ、記録をする帳簿記入の方法

【現金主義】

現金の収入・支出という事実に基づいて、それを記録する考え方

新公会計制度の考え方

【複式簿記】

一つの取引について、原因と結果の両方から二面的にとらえ、記録をする帳簿記入の方法

【発生主義】

現金の収入・支出にかかわらず、取引が発生した時点で収益・費用を記録する考え方

新公会計制度4つのメリット

従来の官庁会計制度の決算書と比べて、新公会計制度の財務諸表には、4つのメリットがあります。

- メリット1：資産・負債といった、東京都全体のストック情報の把握
- メリット2：減価償却費等を含む、正確なコスト情報の把握



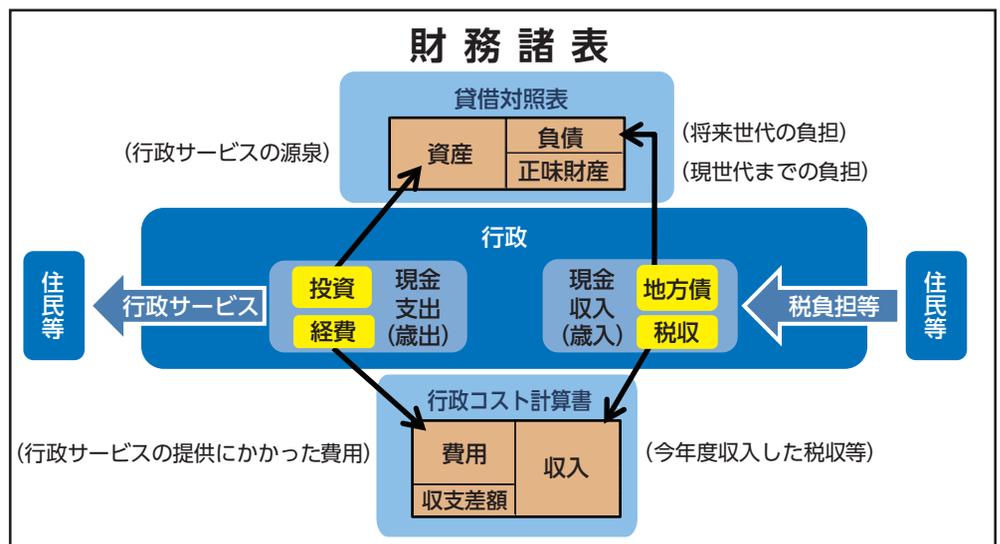
- メリット3：住民の皆様等への、行政運営の結果に関する説明責任の充実
- メリット4：施策内容の検証等、マネジメントへの活用

都では、法令で定められた官庁会計決算書を補完する資料として、新公会計制度による財務諸表を作成しています。

都の財務諸表が表していること

都の財務諸表は、住民の皆様の税負担と行政サービスの実施状況との対比など、行政運営の結果を財務面から明確に示すことができます。

その関係を図示すると右のようになります。



財務諸表の種類

都の財務諸表は、主として①貸借対照表、②行政コスト計算書、③キャッシュ・フロー計算書、④正味財産変動計算書の4つから構成されています。

①貸借対照表

資産	負債
現金預金	正味財産

- ・「貸借対照表」(B/S※¹)とは、年度末時点における資産・負債の金額を表示した一覧表で、都の財政状態を明らかにしています。
- ・現金預金は、キャッシュ・フロー計算書の形式収支と一致します。
- ・正味財産は、正味財産変動計算書の当期末残高と一致します。

※1 B/S…Balance Sheetの略称

②行政コスト計算書

費用	収入
当期収支差額	

- ・「行政コスト計算書」とは、一会計期間の行政運営に伴う費用と、その財源としての収入の金額を示した一覧表で、都の収支の状況を明らかにしており、企業会計の「損益計算書」(P/L※²)に相当します。
- ・当期収支差額は、正味財産変動計算書の当期変動額の中にも表れます。

※2 P/L…Profit and Loss statementの略称

③キャッシュ・フロー計算書

行政サービス活動
社会資本整備等投資活動
財務活動
収支差額合計
+
前年度からの繰越金
形式収支

- ・「キャッシュ・フロー計算書」(C/F※³)とは、一会計期間における3つの活動区分ごとの現金収支を表示した一覧表で、どのような要因で現金(キャッシュ)が増減したのかを明らかにしています。
- ・形式収支は、貸借対照表の現金預金と一致します。

※3 C/F…Cash Flow statementの略称

④正味財産変動計算書

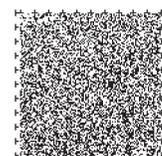
前期末残高
当期変動額
当期収支差額
当期末残高

- ・「正味財産変動計算書」とは、資産と負債の差額である正味財産の、一会計年度の増減について明らかにした一覧表で、企業会計の「株主資本等変動計算書」に相当します。
- ・当期末残高は、貸借対照表の正味財産と一致します。

*上記4表に加え『附属明細書』(有形固定資産及び無形固定資産の明細、引当金の明細)『注記』も作成しています。

(参考) 官庁会計決算書

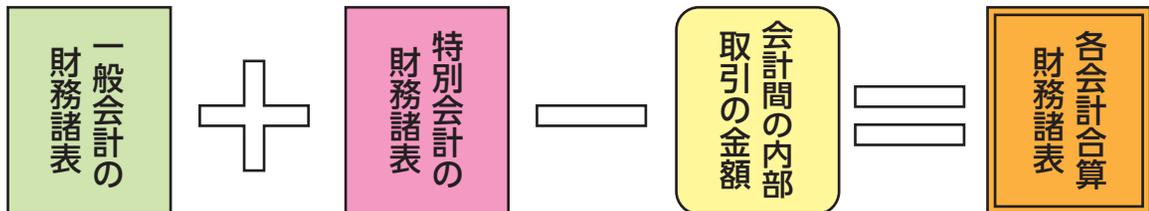
歳入
歳出
差引残高(形式収支)



2 令和2年度 東京都の財務諸表のポイント

掲載する財務諸表

東京都の財務諸表（概要版）には、一般会計・特別会計を合算した財務諸表（各会計合算財務諸表）の会計報告を掲載しています。合算の対象となる特別会計は以下のとおりです。



(単位：億円)

会 計	貸借対照表			行政コスト計算書			キャッシュ・フロー計算書			正味財産変動計算書		
	資 産	負 債	正味財産	収 入	費 用	収支差額	収 入	支 出	収支差額	前期末残高	当期変動額	当期末残高
一般会計	328,719	61,026	267,693	69,969	68,985	984	84,615	84,870	△ 254	266,098	1,594	267,693
特別区財政調整会計	0	0	0	0	9,874	△ 9,874	0	9,874	△ 9,874	0	0	0
地方消費税清算会計	2,474	0	2,474	21,320	15,495	5,825	21,320	15,495	5,825	3,094	△ 620	2,474
小笠原諸島生活再建資金会計	8	0	8	0	0	0	0	0	0	8	0	8
国民健康保険事業会計	717	0	716	10,037	10,609	△ 571	10,037	10,609	△ 572	480	236	716
母子父子福祉貸付資金会計	439	288	151	0	1	△ 1	35	22	14	151	0	151
心身障害者扶養年金会計	325	0	325	0	38	△ 37	38	38	0	362	△ 37	325
中小企業設備導入等資金会計	45	28	17	0	0	0	4	3	1	18	△ 1	17
林業・木材産業改善資金助成会計	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
沿岸漁業改善資金助成会計	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2
と場会計	60	49	11	15	57	△ 42	20	56	△ 36	17	△ 5	11
都営住宅等事業会計	21,507	5,439	16,068	792	1,312	△ 521	1,179	1,445	△ 267	16,151	△ 83	16,068
都営住宅等保証金会計	168	167	2	0	0	0	28	23	5	2	0	2
都市開発資金会計	313	0	313	6	0	6	31	0	31	337	△ 24	313
用地会計	193	0	193	0	1	△ 1	53	37	16	216	△ 23	193
公債費会計	0	0	0	0	0	0	9,919	13,388	△ 3,470	0	0	0
臨海都市基盤整備事業会計	335	1	334	8	10	△ 2	7	10	△ 2	336	△ 2	334
(特別会計合計)	26,587	5,972	20,615	32,178	37,396	△ 5,218	42,671	51,000	△ 8,329	21,174	△ 559	20,615
会計間の繰入・繰出及び債権・債務等の相殺	△ 87	△ 87	0	△ 6,507	△ 10,999	4,492	△ 7,015	△ 14,978	7,964	0	0	0
各会計合算	355,220	66,912	288,308	95,640	95,382	258	120,271	120,891	△ 619	287,273	1,035	288,308

貸借対照表

◎資産・負債・正味財産について

前年度と比較すると、資産の部は 2,718 億円増加、負債の部は 1,638 億円増加、正味財産の部は 1,035 億円増加しました。

【資産の部】	【負債の部】
流動資産	流動負債
	固定負債
固定資産	負債の部合計 65,229
	【正味財産の部】
	正味財産の部合計 287,273
資産の部合計 352,502	負債及び正味財産の部合計 352,502

【資産の部】	【負債の部】
流動資産	流動負債
	固定負債
固定資産	負債の部合計 66,912
	【正味財産の部】
	正味財産の部合計 288,308
資産の部合計 355,220	負債及び正味財産の部合計 355,220

- 資産 2,718億円増 主な要因：行政財産、インフラ資産、投資その他の資産等の増加
- 負債 1,683億円増 主な要因：都債の増加
- 正味財産 1,035億円増

行政コスト計算書

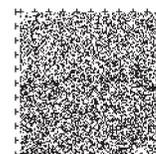
◎当期収支差額について

前年度と比較すると、通常収支差額が 7,605 億円減少し、特別収支差額が 685 億円増加したことにより、当期収支差額は 6,920 億円減少しました。

【通常収支の部】	
行政収支の部	
金融収支の部	
通常収支差額	7,145
【特別収支の部】	
特別収支差額	33
当期収支差額	7,178

【通常収支の部】	
行政収支の部	
金融収支の部	
通常収支差額	△ 460
【特別収支の部】	
特別収支差額	718
当期収支差額	258

- 通常収支差額 7,605億円減 主な要因：補助費等の費用の増加
- 特別収支差額 685億円増 主な要因：その他特別費用等の費用の減少
- 当期収支差額 6,920億円減



3 貸借対照表（各会計合算）：主な内容

貸借対照表は、**会計年度末時点**（出納整理期間中の増減を含みます）における都の**財政状態**を明らかにすることを目的として作成しています。

流動資産

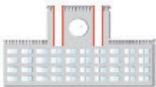
1年以内に現金化する資産



- **収入未済**
収入すべき額のうち、まだ現金収入されていない額
- **不納欠損引当金・貸倒引当金**
収入未済や短期貸付金のうち、不納欠損や貸し倒れとなる可能性がある分について見積り計上したもの（資産の控除項目）
- **基金積立金**
財政調整基金や、翌年度に取り崩す予定の減債基金の額

固定資産

行政活動のために使用することを目的として保有する資産、**1年を超えて**現金化される資産など

- **行政財産**
都庁舎や都立学校など、公共用に使用するための資産（インフラ資産を除く）

- **普通財産**
行政財産以外の公有財産。行政目的で使用しなくなった財産や、貸付等で収益が得られる一般的な財産
- **重要物品**
自動車など、取得価格 100 万円以上の物品
- **インフラ資産**
道路、橋梁、港湾、漁港、空港及び鉄道
- **ソフトウェア**
総開発経費 1 億円以上のシステム（平成 29 年度以降開発分）
- **リース資産**
ファイナンス・リース取引におけるリース物件
- **建設仮勘定**
建設中の固定資産に係る支出額

- **ソフトウェア仮勘定**
開発中のソフトウェアに係る支出額
- **投資その他の資産**
公営企業会計出資金、翌々年度以降に取り崩す予定の基金積立金など

どのような資産をどのくらい保有しているか

（令和3年3月）

科 目	金 額
資産の部	
流動資産	15,800
現金預金	5,204
収入未済	1,120
不納欠損引当金	△ 119
基金積立金	8,226
短期貸付金	1,378
貸倒引当金	△ 9
その他流動資産	0
固定資産	339,419
行政財産	80,898
普通財産	15,240
重要物品	765
インフラ資産	149,720
ソフトウェア	75
リース資産	12
建設仮勘定	13,060
ソフトウェア仮勘定	8
投資その他の資産	79,641
資産の部合計	355,220

【参考】土地・建物等の金額（億円）

	土 地
行政財産	53,564
普通財産	11,219
インフラ資産	128,585

東京都の貸借対照表の特徴

- ✓ 換金性の高い資産、返済期限の短い負債から順に配列しています（流動性配列法）。
- ✓ 資産の価額は、取得時に支払った額を基礎に評価しています（取得原価主義）。
- ✓ 道路や橋梁、港湾、空港などを「インフラ資産」として、「資産」に区分して計上しています。

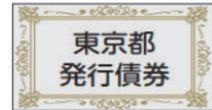
将来支払わなければならない負債がどのくらいあるのか

31日現在 (単位：億円)

科 目	金 額
負債の部	
流動負債	4,548
還付未済金*	22
都債	3,381
リース債務	2
賞与引当金	1,136
その他の流動負債	7
固定負債	62,364
都債	52,449
リース債務	3
退職給与引当金	9,541
その他の固定負債	370
負債の部合計	66,912
正味財産の部	
正味財産	288,308
正味財産の部合計	※1 288,308
負債及び正味財産の部合計	355,220

流動負債

1年以内に返済すべき負債



➤ 都債(流動)

資産の形成等のために発行した都債のうち、翌年度償還予定額

* 還付未済金

地方税法の規定により生じる還付金や、誤納又は過納となった歳入の払戻金のうち、まだ支払われていないもの

固定負債

1年を超えて返済時期が到来する負債

➤ 都債(固定)

資産の形成等のために発行した都債のうち、翌々年度以降の償還予定額

➤ 退職給与引当金

在籍する職員が期末に自己都合退職すると仮定した場合に必要な退職手当額を見積り計上

資産の総額から負債の総額を控除した金額

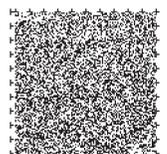
※1 正味財産変動計算書の「当期末残高」と一致 (P16 参照)

(参考) 都民1人当たりの資産等の状況

資産 253万円	負債 48万円
	正味財産 205万円

* 東京都の人口(推計) 14,050,766人
(令和3年4月1日現在)

建 物	その他の資産	合 計
24,182	3,152	80,898
3,441	580	15,240
541	20,594	149,720



4 貸借対照表(各会計合算)：前年度との比較

資 産

(単位：億円)

流動資産 1兆5,800億円
(前年度比 3,812億円減)

- ・現金預金619億円の減少
- ・収入未済449億円の増加
- ・基金積立金3,925億の減少
(新型コロナウイルス感染症対策財源として財政調整基金 4,721億円取崩)

固定資産 33兆9,419億円
(前年度比 6,529億円増)

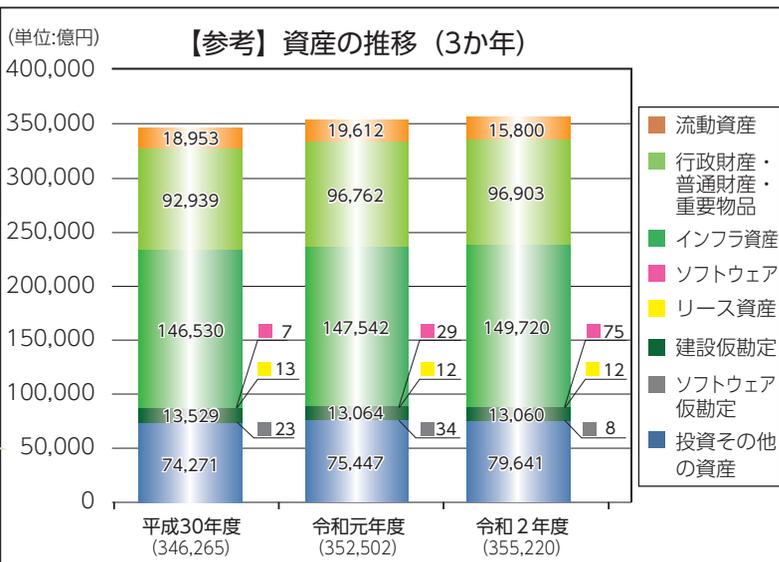
- ・行政財産855億円の増加
(建物1,231億円の増加等)
- ・普通財産738億円の減少
(建物550億円の減少等)
- ・インフラ資産2,178億円の増加
(土地1,610億円の増加等)
- ・投資その他の資産4,194億円の増加
(長期貸付金2,943億円の増加等)

資産総額 35兆5,220億円
(前年度比 2,718億円増)

- ・行政財産、インフラ資産、投資その他の資産の増加

* 保有資産の9割以上は固定資産

科 目	令和2年度	令和元年度	増減額	増減率
【資産の部】				
流動資産	15,800	19,612	△ 3,812	△ 19.4%
現金預金	5,204	5,823	△ 619	△ 10.6%
収入未済	1,120	671	449	66.9%
不納欠損引当金	△ 119	△ 80	△ 39	48.8%
基金積立金	8,226	12,151	△ 3,925	△ 32.3%
短期貸付金	1,378	1,055	323	30.6%
貸倒引当金	△ 9	△ 8	△ 1	12.5%
その他流動資産	0	0	0	-
固定資産	339,419	332,890	6,529	2.0%
行政財産	80,898	80,043	855	1.1%
普通財産	15,240	15,978	△ 738	△ 4.6%
重要物品	765	741	24	3.2%
インフラ資産	149,720	147,542	2,178	1.5%
ソフトウェア	75	29	46	158.6%
リース資産	12	12	0	0.0%
建設仮勘定	13,060	13,064	△ 4	△ 0.0%
ソフトウェア仮勘定	8	34	△ 26	△ 76.5%
投資その他の資産	79,641	75,447	4,194	5.6%
資産の部合計	355,220	352,502	2,718	0.8%



* カッコ内の数値は、「資産の部」合計額

平成30年度以降、資産は一貫して増加しています。

(単位：億円)

科 目	令和2年度	令和元年度	増減額	増減率
【負債の部】				
流動負債	4,548	4,462	86	1.9%
還付未済金	22	22	0	0.0%
都債	3,381	3,269	112	3.4%
リース債務	2	1	1	100.0%
賞与引当金	1,136	1,154	△ 18	△ 1.6%
その他の流動負債	7	15	△ 8	△ 53.3%
固定負債	62,364	60,767	1,597	2.6%
都債	52,449	50,897	1,552	3.0%
リース債務	3	5	△ 2	△ 40.0%
退職給与引当金	9,541	9,494	47	0.5%
その他の固定負債	370	371	△ 1	△ 0.3%
負債の部合計	66,912	65,229	1,683	2.6%
【正味財産の部】				
正味財産	288,308	287,273	1,035	0.4%
(うち当期正味財産増減額)	1,035	8,493	△ 7,458	△ 87.8%
正味財産の部合計	288,308	287,273	1,035	0.4%
負債及び正味財産の部合計	355,220	352,502	2,718	0.8%

負債

流動負債 4,548億円
(前年度比 86億円増)

- ・ 翌年度償還予定の都債112億円の増加
- ・ 賞与引当金18億円の減少

固定負債 6兆2,364億円
(前年度比 1,597億円増)

- ・ 翌々年度以降償還予定の都債1,552億円の増加

負債総額 6兆6,912億円
(前年度比 1,683億円増)

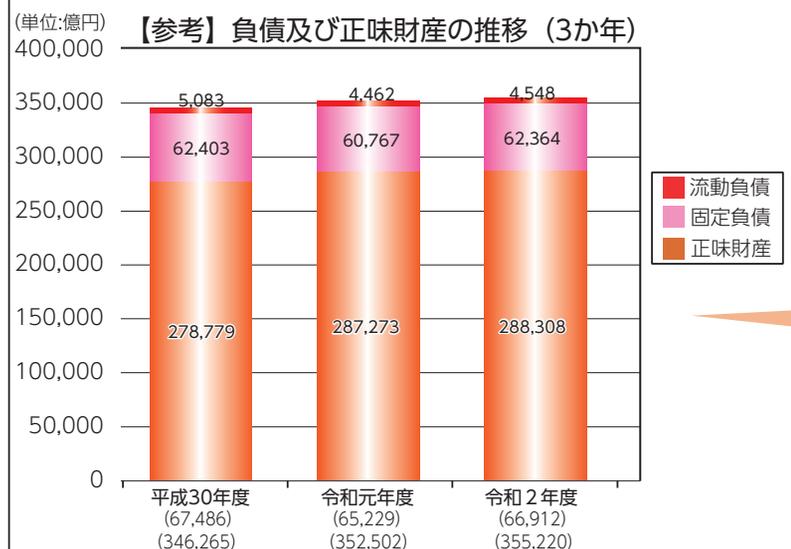
- ・ 都債総額1,664億円の増加

正味財産

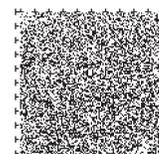
28兆8,308億円
(前年度比 1,035億円増)

* 正味財産の変動の内訳は、正味財産変動計算書で表示しています (P16参照)。

令和元年度まで負債は減少傾向でしたが、令和2年度は増加に転じました。平成30年度以降、正味財産は一貫して増加しています。



* カッコ内の数値は、上段が「負債の部」合計額、下段が「負債及び正味財産の部」合計額



5 行政コスト計算書(各会計合算)

行政コスト計算書は、**行政上の収入と行政活動に伴い発生した費用**とを対応させたものです。費用には、減価償却費や引当金繰入額など、当期に現金支出が生じていないコストも含まれています。

通常収支差額

行政収支差額と金融収支差額との合計額

行政収支

行政の通常の活動による収支
* 行政収支の各科目に含まれる経費はP13参照

金融収支

預金利息や資金調達のためのコスト等を反映した収支



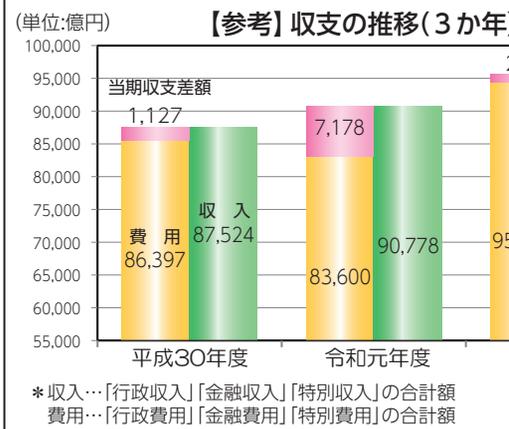
特別収支

固定資産の売却損益等、通常収支には含まれない取引により発生する収支

当期収支差額

通常収支差額と特別収支差額との合計額
* 企業会計の損益計算書の「当期純利益」に相当する項目ですが、行政には利益の概念がないので収入と費用との差額を表しています。この差額は正味財産変動計算書の「その他剰余金」に反映されており、社会資本の整備や、都債の償還等に充てられます。

科目	令和2
通常収支の部 収支差額	
行政収支の部 収支差額	
行政収入	
都税・地方消費税	
地方譲与税・交付金	
国庫支出金	
使用料及手数料	
その他	
行政費用	
税運動経費	
給与関係費	
物件費・維持補修費	
扶助費・補助費等	
投資的経費	
減価償却費	
その他	
金融収支の部 収支差額	
金融収入	
受取利息及配当金	
金融費用	
公債費(利子)	
都債発行費	
その他	
特別収支の部 収支差額	
特別収入	
特別費用	
当期収支差額	



: 主要内容と前年度との比較

東京都の行政コスト計算書の特徴

✓ 使用料等、行政サービスの対価としての収入だけでなく、税金や国庫支出金を含めたすべての収入を計上し、一会計期間の費用と収入の対応関係を表示しています。

自 各年度の4月1日
至 各年度の3月31日

(単位: 億円)

令和2年度	令和元年度	増減額	増減率
△ 460	7,145	△ 7,605	-
△ 60	7,605	△ 7,664	-
94,483	89,158	5,325	6.0%
68,846	69,577	△ 731	△1.1%
593	2,919	△ 2,327	△79.7%
14,886	6,044	8,843	146.3%
1,438	1,509	△ 70	△4.7%
8,720	9,109	△ 389	△4.3%
94,543	81,553	12,990	15.9%
13,894	14,360	△ 467	△3.2%
13,689	13,747	△ 57	△0.4%
4,866	4,433	433	9.8%
50,857	37,808	13,049	34.5%
4,398	4,617	△ 220	△4.8%
2,102	2,026	76	3.7%
4,737	4,561	176	3.8%
△ 400	△ 460	60	-
138	138	0	△ 0.0%
138	138	0	△ 0.0%
538	598	△ 60	△ 10.0%
511	581	△ 70	△ 12.0%
24	15	9	60.1%
3	2	1	43.4%
718	33	685	-
1,019	1,482	△ 463	△ 31.3%
301	1,449	△ 1,148	△ 79.2%
※1 258	7,178	△ 6,920	-

※1 正味財産変動計算書の「その他剰余金」に反映 (P16参照)

行政収支

行政収入 **9兆4,483億円**
(前年度比 **5,325億円増**)

- ・ 地方譲与税・交付金の減少
- ・ 国庫支出金の増加
(新型コロナウイルス感染症対策財源 7,898億円)

行政費用 **9兆4,543億円**
(前年度比 **1兆2,990億円増**)

- ・ 扶助費・補助費等の増加
(主に新型コロナウイルス感染症対策支出 感染拡大防止協力金 2,639億円など)

金融収支

金融収入 **138億円**
(前年度比 **0億円減**)

金融費用 **538億円**
(前年度比 **60億円減**)

- ・ 公債費(利子)の減少

特別収支

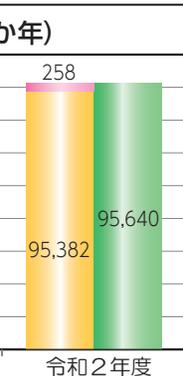
特別費用 **301億円**
(前年度比 **1,148億円減**)

- ・ その他特別費用の減少

当期収支差額

258億円
(前年度比 **6,920億円減**)

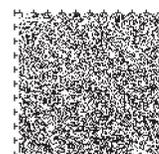
行政コスト計算書



【参考】都民1人当たりの収入と費用の状況



* 東京都の人口(推計) 14,050,766人
(令和3年4月1日現在)



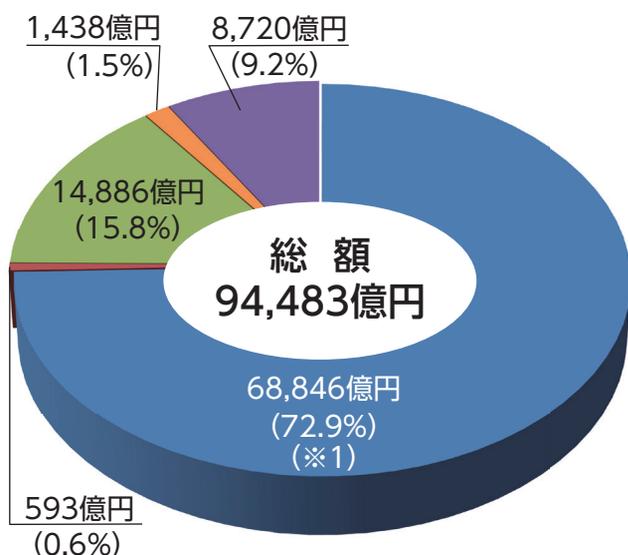
6 行政コスト計算書 (各会計合算) : 内訳

行政収入・行政費用の内訳

行政収入の内訳は、「都税・地方消費税」が6兆8,846億円(※1)(構成比72.9%)と大半を占めています。次いで、「国庫支出金」の1兆4,886億円(構成比15.8%)となっています。

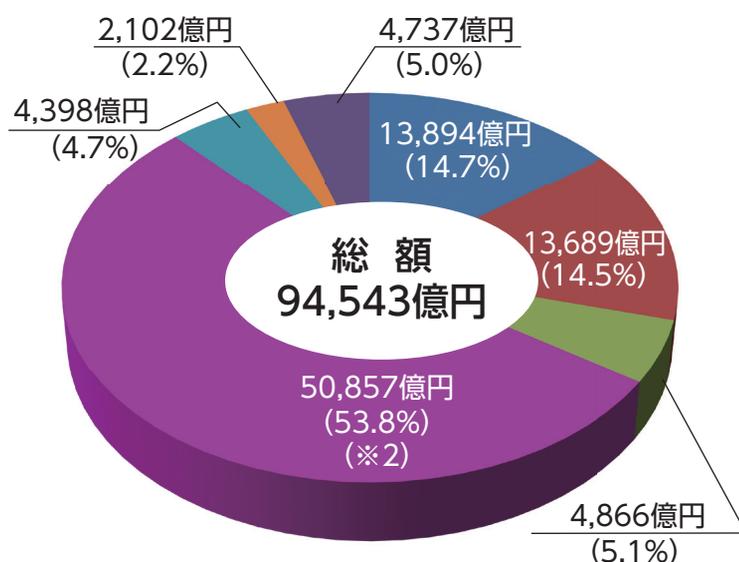
行政費用の内訳は、最も多いものが「扶助費・補助費等」の5兆857億円(※2)(構成比53.8%)、次いで「税連動経費」の1兆3,894億円(構成比14.7%)となっています。

行政収入の内訳



- 都税・地方消費税
- 国庫支出金
- その他
- 地方譲与税・交付金
- 使用料及手数料

行政費用の内訳



- 税連動経費
- 物件費・維持補修費
- 投資的経費
- その他
- 給与関係費
- 扶助費・補助費等
- 減価償却費

(※1) 「都税・地方消費税」6兆8,846億円には道府県間清算前の地方消費税2兆1,320億円が含まれています。

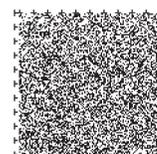
(※2) 「扶助費・補助費等」5兆857億円には、地方消費税の道府県間清算に伴う支出1兆5,443億円が含まれています。

行政収入の各科目に含まれる主な内容

科目名	主な内容
都税・地方消費税	都民税、事業税等、地方税法に規定する普通税・目的税等
地方譲与税	特別法人事業譲与税、地方揮発油譲与税等、本来地方税に属すべき財源を国が形式上国税として徴収し、地方公共団体に対して譲与するもの
交付金	減収を補てんするための地方特例交付金、道路交通安全施設整備の経費に充てるための交通安全対策特別交付金等、国から交付されるもの
国庫支出金	国庫負担金、国庫補助金等、地方財政法に基づき国から地方に交付される支出金のうち、その用途が特定されているもの
使用料及手数料	公の施設を利用する際に徴収する金銭、特定の者のために提供する役務に対しその費用を償うために徴収する金銭等

行政費用の各科目に含まれる主な内容

科目名	主な内容
税連動経費	特別区財政調整交付金、地方消費税交付金等、税の一定割合を原資として区市町村に交付する経費
給与関係費	給料、各種手当、退職年金等、労働の対価に関する経費
物件費	需用費、役務費、委託料、賃借料、資産形成にならない備品購入費等、消費的性格が強い経費
維持補修費	施設等の効用を維持するために必要な経費。当該施設等の資産価値を向上させる支出は含まない。
扶助費	生活保護法や身体障害者福祉法等に基づき、都から被扶助者に対して直接支給される経費
補助費等	他の団体等に支出する負担金、補助金、交付金等の経費。地方消費税の清算金や損害保険料、補償金・賠償金も含まれる。
投資的経費	支出の効果が長期にわたる普通建設事業費や災害復旧事業費等のうち、事務費等の資産の形成に寄与しない経費
減価償却費	建物、工作物、一定金額以上の物品等、固定資産の1年間の価値の減少分について、費用として計上したもの



7 キャッシュ・フロー計算書(各会計合算)

キャッシュ・フロー計算書は、現金収支を3つの活動区分(行政サービス活動、社会資本整備等投資活動、財務活動)に分けて表示したもので、キャッシュ・フロー(資金の流れ)を活動区分ごとに明らかにしています。

行政サービス活動のキャッシュ・フロー収支

経常的な行政サービスを提供するための現金収支

<収入>

税収や固定資産の形成に寄与しない国庫支出金、事業収入など



<支出>

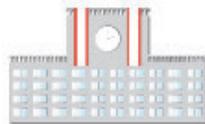
給料の支払いや物品の購入、補助金等、行政サービスを行うために要した経費

社会資本整備等投資活動のキャッシュ・フロー収支

固定資産や基金の増減に係る現金収支

<収入>

固定資産の形成に寄与する国庫支出金、固定資産の売却収入など



<支出>

固定資産の形成に寄与する支出、貸付、出資等の投資など

行政活動キャッシュ・フロー収支差額

「行政サービス活動」+「社会資本整備等投資活動」のキャッシュ・フロー収支

*企業会計では、「営業活動」+「投資活動」のキャッシュ・フローは「フリー・キャッシュ・フロー」と呼ばれ、自由に使用できる資金を示します。

財務活動のキャッシュ・フロー収支

外部からの資金調達やその償還に係る現金収支

<例>

都債の発行・償還、借入金の増減など

自 各年度の
至 各年度の

科目	
行政サービス活動収支差額 (A)	
収入合計	
	税収等
	国庫支出金等
	業務収入その他
	金融収入
支出合計	
	税連動経費
	行政支出
	金融支出
	特別支出
社会資本整備等投資活動収支差額 (B)	
収入合計	
	国庫支出金等
	財産収入
	基金繰入金
	貸付金元金回収収入等
	保証金収入
支出合計	
	社会資本整備支出
	基金積立金
	貸付金・出資金等
	保証金支出
行政活動キャッシュ・フロー収支差額 (A+B)	
財務活動収支差額 (C)	
収入合計	
	財務活動収入
支出合計	
	財務活動支出
収支差額合計 (D = A + B + C)	
前年度からの繰越金 (E)	
形式収支 (D + E)	

： 主要内容と前年度との比較

東京都のキャッシュ・フロー計算書の特徴

- ✓ 3つの活動区分は、企業会計での計算書の3区分(営業・投資・財務活動)に相当します。
- ✓ 企業会計の「フリー・キャッシュ・フロー」に相当する額を、「行政活動キャッシュ・フロー収支差額」として表示しています。

4月 1日
3月31日

(単位：億円)

令和2年度	令和元年度	増減額	増減率
1,994	9,465	△ 7,472	-
94,425	89,304	5,121	5.7%
68,937	72,401	△ 3,464	△ 4.8%
14,924	6,076	8,848	145.6%
10,427	10,689	△ 263	△ 2.5%
138	138	0	△ 0.0%
92,432	79,839	12,593	15.8%
13,894	14,360	△ 467	△ 3.2%
77,709	64,549	13,160	20.4%
805	914	△ 109	△ 11.9%
24	15	9	57.3%
△ 4,272	△ 6,510	2,238	-
14,495	11,650	2,845	24.4%
552	644	△ 92	△ 14.3%
97	162	△ 65	△ 40.2%
9,584	7,885	1,699	21.5%
4,258	2,951	1,307	44.3%
5	8	△ 4	△ 43.6%
18,767	18,160	607	3.3%
3,520	5,558	△ 2,038	△ 36.7%
6,042	8,718	△ 2,676	△ 30.7%
9,198	3,878	5,321	137.2%
7	6	1	10.6%
△ 2,278	2,956	△ 5,234	-
1,659	△ 2,537	4,196	-
11,351	6,366	4,986	78.3%
11,351	6,366	4,986	78.3%
9,692	8,903	789	8.9%
9,692	8,903	789	8.9%
△ 619	418	△ 1,038	-
5,823	5,405	418	7.7%
5,204	5,823	△ 619	-

行政サービス活動

1,994億円 (前年度比 7,472億円減)

- ・ 国庫支出金等の増加
(新型コロナウイルス感染症対策財源 7,898億円)
- ・ 行政支出の増加
(主に新型コロナウイルス感染症対策支出の補助費等の増加)

社会資本整備等投資活動

△4,272億円 (前年度比 2,238億円増)

- ・ 基金繰入金の増加
(新型コロナウイルス感染症対策財源 財政調整基金 4,721億円取崩)
- ・ 貸付金・出資金等の増加
(新型コロナウイルス感染症対策支出 中小企業制度融資等 6,674億円)

財務活動

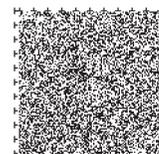
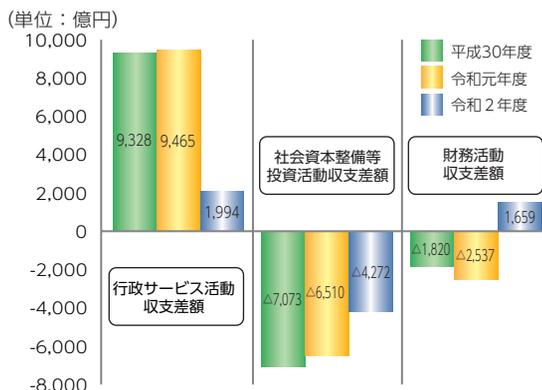
1,659億円 (前年度比 4,196億円増)

- ・ 都債の発行による収入の増加
(新型コロナウイルス感染症対策財源 2,817億円)

全活動区分

- ・ 収支差額合計(各活動区分の合計)
△619億円 (前年度比 1,038億円減)
- ・ 形式収支(収支差額合計と前年度からの繰越金の合計)
5,204億円 (前年度比 619億円減)

【参考】各活動区分別収支差額の推移(3か年)



8 正味財産変動計算書(各会計合算)

正味財産変動計算書は、貸借対照表の正味財産の部の変動状況を要因ごとに示したものです。

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

(単位:億円)

	開始残高相当	国庫支出金	負担金及繰入金等	受贈財産評価額*	区市町村等 移管相当額*	会計間取引勘定*	その他剰余金	合計
前期末残高	190,234	15,011	1,029	4,341	△ 1,598	0	78,256	287,273
当期変動額		516	33	268	△ 40	0	258	1,035
固定資産等の増減		516	33	268	△ 40	△549		228
都債等の増減						△84		△ 84
その他会計間取引						633		633
当期収支差額							※1 258	258
当期末残高	190,234	15,528	1,062	4,609	△ 1,638	0	78,514	※2 288,308

* 受贈財産評価額…無償で受け入れた資産の評価額

* 区市町村等移管相当額…事業の移管等に伴い区市町村等に譲与した資産額

* 会計間取引勘定…会計間で資産、負債等を異動した場合に計上する勘定

※1 行政コスト計算書の「当期収支差額」と一致 (P11参照)

※2 貸借対照表の「正味財産」と一致 (P7参照)

当期末残高 28兆8,308億円 (前期末比 1,035億円増加)

- ・「国庫支出金」516億円の増加
- ・固定資産形成のための「受贈財産評価額」268億円の増加
- ・行政コスト計算書の当期収支差額分である「その他剰余金」258億円の増加

(参考) 注記

注記とは、財務諸表の作成に関する**重要な会計方針**や重要な後発事象など、財務諸表の内容を理解するために必要な事項について説明したものです。

記載内容

項目	主な内容
重要な会計方針	<ul style="list-style-type: none"> ○有形固定資産の減価償却の方法 定額法による。ただし、道路の舗装部分などについては、取替法を採用 ○有価証券並びに出資金及出捐金の評価基準及び評価方法 取得原価により計上。ただし、減損処理も併用 ○引当金の計上基準 不納欠損引当金及び貸倒引当金:過去3か年の実績等に応じて計上 退職給与引当金:期末要支給額方式により計上 賞与引当金:翌期支給分のうち当期帰属分を計上

* 上記の他に偶発債務、追加情報などを注記

9 附属明細書(各会計合算)

(1)有形固定資産及び無形固定資産の明細は、**都が保有する固定資産(投資その他の資産を除く)**の状況を示したものです。

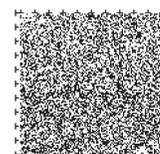
(単位:億円)

区 分	取得原価(減価償却前)			当期末減価償却累計額(B)		差引当期末残高(A-B)
	前期末残高	当期増減額	当期末残高(A)		うち当期償却額	
有形固定資産	306,735	3,758	310,493	51,116	2,096	259,376
行政財産	110,817	1,998	112,815	31,972	1,277	80,844
建物	50,419	1,231	51,650	27,468	1,092	24,182
工作物	6,957	169	7,126	4,197	157	2,929
土地	52,998	566	53,564	0	0	53,564
その他	443	32	475	306	28	169
普通財産	20,418	△ 546	19,872	4,748	215	15,124
建物	7,374	4	7,378	3,937	193	3,441
工作物	1,245	0	1,245	782	22	463
土地	11,769	△ 550	11,219	0	0	11,219
その他	30	0	30	29	0	1
重要物品	2,129	62	2,191	1,426	115	765
インフラ資産	160,286	2,247	162,533	12,961	489	149,572
建物	1,200	104	1,304	763	34	541
工作物	32,078	533	32,611	12,172	454	20,439
浮標等	33	0	33	27	1	6
土地	126,975	1,610	128,585	0	0	128,585
リース資産	21	0	21	10	1	12
建設仮勘定	13,064	△ 4	13,060	0	0	13,060
無形固定資産	379	31	410	8	6	402
行政財産	55	0	55	0	0	55
普通財産	111	5	116	0	0	116
インフラ資産	149	0	149	0	0	149
ソフトウェア	31	52	83	8	6	75
ソフトウェア仮勘定	34	△ 26	8	0	0	8
計	307,114	3,789	310,903	51,125	2,102	259,778

(2)引当金の明細は、**都が計上している引当金**の状況を示したものです。

(単位:億円)

区 分	前期末残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
不納欠損引当金	80	81	42	1	119
貸倒引当金	32	2	2	3	29
投資損失引当金	0	0	0	0	0
賞与引当金	1,154	1,136	1,154	0	1,136
退職給与引当金	9,494	905	858	0	9,541
計	10,760	2,124	2,056	4	10,824

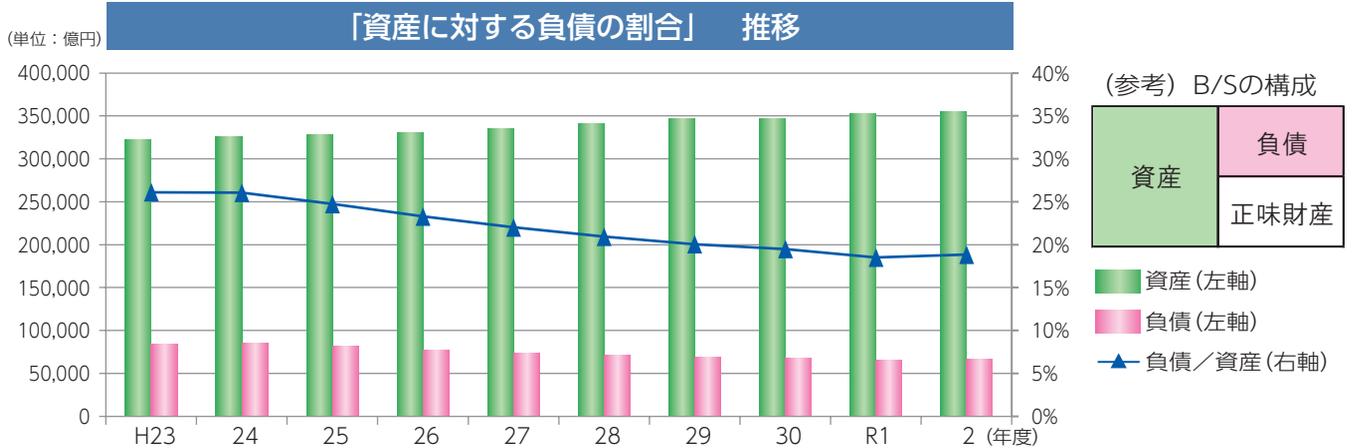


10 財務諸表から分かる指標 - 10年間の推移 -

貸借対照表から分かる指標

資産に対する負債の割合

$$= \text{負債の部合計} / \text{資産の部合計}$$



都債を含む負債の資産に対する割合、すなわち**将来世代が負担する額の割合**の推移を示しています。

- ・令和2年度では、資産が行政財産建物の取得等により増加(前年度比+2,718億円)し、負債が都債の発行等により増加(前年度比+1,683億円)しています。
- ・将来世代の負担割合は、平成23年度以降一貫して減少しており、平成23年度の26%から、令和2年度には19%へ低下(△7%)しました。

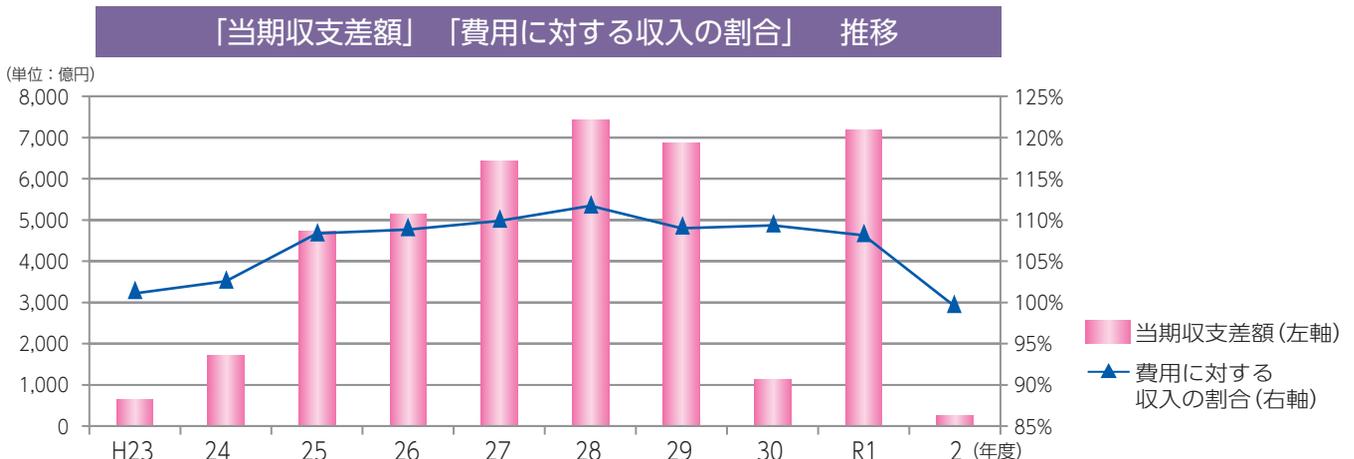
行政コスト計算書から分かる指標

当期収支差額

$$= \text{収入} - \text{費用}$$

費用に対する収入の割合

$$= (\text{行政収入} + \text{金融収入}) / (\text{行政費用} + \text{金融費用})$$



行政活動に要した**費用を収入でどの程度賄っているか、その差額と割合**の推移を示しています。

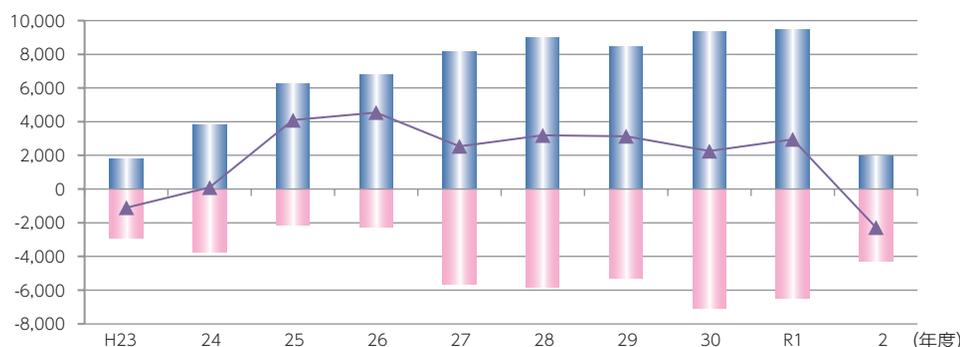
- ・平成23年度のリーマンショックの影響による税込減等により、「当期収支差額」、「費用に対する収入の割合」はともに低い水準にありましたが、平成24年度以降は増加傾向となりました。
- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策による行政費用の急増により、「当期収支差額」は都が新公会計制度を導入した平成18年度以降で最も少ない258億円、「費用に対する収入の割合」は99.5%と初めて100%を切りました。 ※平成30年度は減価償却方法の変更等に伴い「当期収支差額」が減少

キャッシュ・フロー計算書から分かる指標

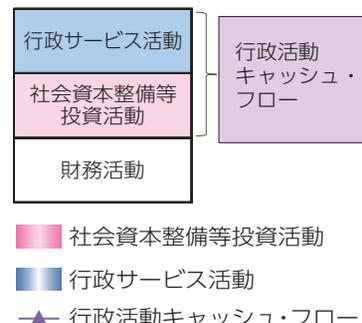
行政活動キャッシュ・フロー収支差額

「行政活動キャッシュ・フロー収支差額」推移

(単位：億円)



(参考) 3活動区分の収支差額の構成



経常的な行政サービス活動と投資活動のバランスと、財務活動を除くキャッシュの安定性を示しています。

- ・「行政サービス活動収支差額」、「社会資本整備等投資活動収支差額」を合計した「行政活動キャッシュ・フロー収支差額」は、平成23年度から24年度は0付近でしたが、その後令和元年度までは行政サービス活動に伴う収支の範囲内で投資活動を実施し、一定の水準を確保していました。
- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、行政支出が増加し「行政サービス活動収支差額」は減少、「社会資本整備等投資活動収支差額」は基金繰入金の増加により増加、結果的に「行政活動キャッシュ・フロー収支差額」は大幅に減少しています。

附属明細書から分かる指標

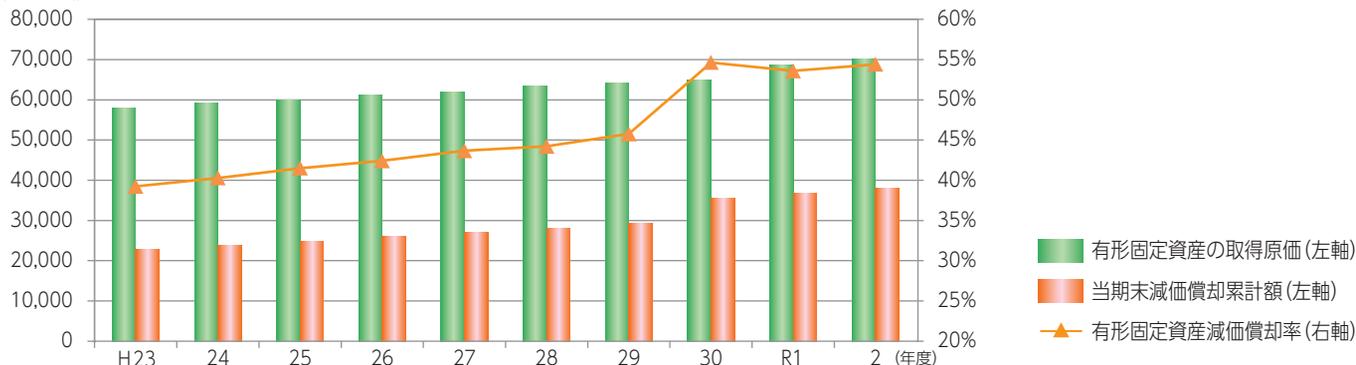
有形固定資産減価償却率 = 減価償却累計額 / 有形固定資産の取得原価

*有形固定資産の取得原価=(有形固定資産合計-非償却資産+減価償却累計額)

*インフラ資産(道路・橋梁・港湾・空港等)には、減価償却累計額が計上されない道路(取替法)が含まれるため除外

「有形固定資産減価償却率」推移

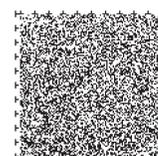
(単位：億円)



耐用年数に対して、資産の取得からどの程度経過しているかの推移を示しています。

- ・平成23年度以降、「有形固定資産の取得原価」と「減価償却累計額」はともに増加し続けています。
- ・「有形固定資産減価償却率」は、平成23年度以降、増加傾向にあり、固定資産の老朽化が進んでいることがわかります。令和2年度は、54% (前年度比±0%) で前年度と同じ水準となっています。

※平成30年度は残価率の廃止等により「有形固定資産減価償却率」は大きく上昇



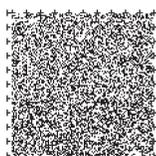
東京都における新公会計制度の経緯

平成 11 年 7 月	貸借対照表を試作
平成 13 年 3 月	「機能するバランスシート」として財務諸表（貸借対照表、行政コスト計算書、キャッシュ・フロー計算書）を公表
平成 14 年 5 月	本格的な複式簿記・発生主義会計の導入を表明
平成 17 年 8 月	「東京都会計基準」の策定・公表
平成 18 年 4 月	新公会計制度の導入
平成 18 年 6 月	「東京都会計基準委員会」の設置
平成 19 年 9 月	新公会計制度による初の財務諸表（平成 18 年度決算）を公表し、決算参考資料として都議会に提出
平成 22 年 11 月	大阪府と共同で「公会計改革白書」を作成し、「公会計制度改革シンポジウム」を開催
平成 23 年 12 月	「新公会計制度普及促進連絡会議」（※）及び「東京都会計制度改革研究会」を発足
平成 25 年 5 月	「固定資産台帳整備の基本手順」を作成し、公表
平成 26 年 5 月	「固定資産台帳整備の基本手順～各自治体の事例集～」を作成し、公表
平成 27 年 11 月	新公会計制度普及促進連絡会議にて「事業別財務諸表 指標分析ガイド」を作成し、公表
令和 元 年 5 月	新公会計制度普及促進連絡会議にて「検討部会報告書」を作成し、公表

（※）新公会計制度普及促進連絡会議：新公会計制度導入済の先行自治体が、全国自治体への普及が一層進むよう、連携した取組を協議するための会議（現 17 団体）

URL：<https://www.kaikeikanri.metro.tokyo.lg.jp/fukyusokushin.html>

（注）本書の計数については、各項目とも原則として表示単位未満を四捨五入しています。表中の計数は端数調整をしていないため、合計・差額等と一致しない場合があります。増減率は円単位の計数を用いて算定しています。



東京都会計管理局管理部会計企画課

東京都新宿区西新宿 2-8-1

電話 03 (5320) 5963

E-mail: S0000539@section.metro.tokyo.jp



古紙配合率70%再生紙を使用しています

（令和3年9月）

登録番号(3)5